

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7番地11		
自己評価作成日	令和元 年 11 月 15 日	評価結果市町提出日	令和2年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2470100435-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地にあり、周りには池や公園もあり、密集地ではなく、緑豊かで四季の移りかわりが良く感じられる。少人数での生活なので、利用者様の変化にすぐに気づくことができ、対応することができる。食事は手作りで旬の食材を取り入れたり、栄養面にも工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はデイサービスが併設されているグループホームで、1階が共有スペース、2階が居室になっている。管理者・職員は事業所の理念「やさしい心、安心な生活、やさしい手、その人らしい生活を大切に」を共有し実践につなげている。利用者・家族の思いや希望にそって、一人ひとりに寄り添いながら支援している。運営推進会議を通して、行政や関係機関、地域代表等と連携を図りながら、地域住民との関係づくりに取り組んでいる。地域の方に、「すずらんさんに助けてもらえる！！」と言ってもらえるような認知症ケアの事業所を目指して、日々の介護に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを常に心に留め、理念に基づいたケアが出来るように職員一人ひとりが日々努力している。	理念「やさしい心、安心な生活、やさしい手、その人らしい生活を大切に」を朝礼やミーティングで共有している。日々、利用者一人ひとりの現状の把握に努め、理念に基づいた生活ができるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	静かな住宅街にあり、自治会に加入させて頂いて、町内清掃に参加しており、また消防訓練にも一緒に訓練したりしています。	自治会に加入し、町内の清掃活動に参加している。地域住民が事業所の消防訓練に参加するなど、地域とつながりながら関係づくりに努めている。また、併設グループホームとの交流が日常的に行われている。来年からギター、大正琴演奏のボランティア訪問が予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進委員会を通じ、事業所の情報を提供したり、地域の困り事を皆で解決の方向へ考えたり、地域包括支援センターの方や市役所の方に助言を頂いたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で挙げられた意見を皆で共有して、解決に向けて話し合ったり、それをサービス向上につなげたりしています。地域包括支援センターの方の助言も頂いています。	年6回、定期的開催されている。事業所の現状報告・事故報告・活動報告を行い、出席者から意見や提案をもらい、サービス向上に活かしている。地域の高齢者の問題や課題についても話し合うなど有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進委員会に地域包括支援センターの方と交代で参加させて頂いて、専門の立場からのアドバイスを頂いています。	運営推進会議に市担当職員と包括支援センター職員が交代で出席している。介護保険の申請・更新手続き、運営上の相談は市役所、日常の相談などは包括支援センターに出向き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、職員は身体拘束をしないケアについては十分理解をしています。	今年度より、身体拘束等適正化のための指針を作成し、年2回、職員会議と運営推進会議において、指針に基づき適正化検討委員会を実施している。拘束事例について検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全上やむを得ず玄関の施錠を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、身体的な行動などをあげ、よくわかりやすくし、理解を深め、虐待防止の意識を高め、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修により、制度について勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書を読み上げ、質問等にお答えして、ご家族様に理解・納得して頂いてからサイン・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方やご家族の方からの意見はすぐに職員間で共有し、サービス向上につなげています。	ほとんどの家族が毎月面会に訪れており、面会時に管理者が意見や要望を聞いたり、緊急搬送時や計画の見直しの再確認を行っている。意見や要望は職員間で共有しサービスにつなげている。毎月「すずらんだより」を発行し利用者の様子や健康状態を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は、職員会議等で管理者・職員間で話し合っています。	管理者は日頃から職員が話し易い雰囲気づくりに努め、職員会議や日々の業務中、食事中などに運営に関する意見や要望・提案を聞き出来る限り取り入れている。職員の提案で食器を軽くて使いやすい物に変えたり、利用者の状況や意向に合わせて入浴介助の方法を工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の勤務状況を把握し、給与水準、労働時間等、職員が働きやすい職場環境の条件の整備に努められていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、現状では行っておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方に寄り添いながら、ご本人の気持ちをお聞きし、またご家族の方からも細かい所までお聞きして取り入れられる所は取り入れ、安心して生活して頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、ご家族の方からの情報を出来るだけ多く聞かせて頂いて、ご本人やご家族が安心して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の方の要望を聞かせて頂き、まず、ご本人の様子を観察し、出来る事を活かした無理のない支援をしていきたいと思っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援になる様な取り組みを職員で共有し、行う様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の生活の中で変化があったことなど、密にご家族の方と連絡、報告を行い、定期的に面会に来て頂いたり、遠方の方には電話で会話して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会して頂ける様な環境になっております。	家族の協力で墓参りや買い物に出かけたり、併設のデイサービスに参加し地域の方との交流が行われている。面会や外出、電話など馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、程よい距離間を保ったり、良好な関係になる様に支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在継続中です。自身が知っている情報をお伝えして、ご本人、ご家族の方が少しでも困らない様に支援させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位のケアになる様に努めております。	日常会話や職員と一対一になる居室や入浴時の会話の中から思いや意向を把握している。利用者の思いに気づいたら、食事時間に口頭で伝え、職員間で共有し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を知り、これからの生活に反映出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、その人の変化に気づいた時は、職員に申し送り、施設全体で共有するよう取り組んでおります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、関係者の方々と話し合い、ご本人に即した介護計画を作成する様になっています。	毎月の職員会議においてケア会議を開催、全員のモニタリングを行っている。初めての方は3か月後、長い方は6か月毎に評価し家族の意向や関係者の意見を反映させて計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は業務日誌、支援経過に記録しております。支援経過を見ながら、介護計画の見直しに活かしていきたいと考えております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズには、体調変化による通院などがありますが、その時に応じた対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による支援を地域包括支援センターの方の協力を得ながら、活用していきたいと考えております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診をして頂いており、緊急時にも受診が出来、適切な医療を受けられる様に支援しております。	月1回の訪問診療を受けている。通院及び他科受診は、基本、家族対応になっているが家族の状況に応じて事業所が代行支援を行っている。緊急時には協力医との連携を図り、必要に応じて法人の看護師を依頼し、適切な医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員との連携が出来ており、適切な処置が出来る様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーを共有し、医療関係者と連携を取り、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、入所時に確認をすると共に、終末期に近い状態になりましたら、再確認を行い、関係者と共にチームで支援の取り組みをしています。	入居時に重度化や終末期の支援のあり方について説明し、「終末期のあり方シート」で対応の希望を確認しサインをいただいている。事業所の方針として看取りは行っておらず、利用者の状態の低下がみられたら、今後の支援について家族・関係者と話し合い、法人の有料老人ホームや老人保健施設等を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送、ご家族への連絡、かかりつけ医への連絡等の手順を職員全体で日頃から把握し、対応出来る様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員が戸惑わない様に努力しています。また、近隣住民の方の協力が得られる様に訓練に参加して頂いています。	年2回、5月と7月に火災想定避難訓練を実施しており、5月の訓練には地域住民が参加している。今後、地域に呼びかけ「普通救命講習会」の開催を検討中である。また、持ち出しリュックに利用者の名簿を入れたり、各居室の出入りに防災頭巾を掛けて災害に備えている。	災害時の2階からの避難訓練をお願いしたい。特に職員の人数の少ないときにどのようにすべきか、消防署立会いの下に実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもあり、一人ひとりのプライバシーの確保をすると共に、言葉かけの対応をしております。	一人ひとりのプライバシーに配慮し、常に言葉がけに注意して支援に努めている。浴室の扉の内側に目隠しを兼ねた暖簾を下げたり、立位が取れない利用者のおむつ交換は静養室で行うなど、入浴介助やトイレ介助は自尊心や羞恥心に配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にお聞きすると共に、自己決定しやすい様な雰囲気づくりをしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、その日の気分や体調に合った支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整髪、定期的に訪問理容の利用をしております。服装はご自分で選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみのひとつになっているので、メニューを話し合ったり、嗜好品を食材に用いたりして、食事が楽しめる工夫をしています。	献立作成・食材購入は併設のデイサービスの管理者が担当し、調理は職員と共同で行っている。塩分制限など、個々の状態に適した食事を提供している。利用者がテーブル拭き、下膳など出来ることを手伝っている。誕生日や行事食は利用者の希望や好みを聞いて、特別食を作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の確保には十分気をつけており、個々の利用者の方の摂取状態に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の方に応じた口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、自力でトイレに行けない方も声掛けによりトイレ誘導を行い、介助により排泄が出来る様に支援を行っております。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来る支援を行っている。現在4名が紙パンツとパット併用、1名がおむつを使用している。夜間、トイレに行く方もみえるが、念のため全居室にポータブルトイレを設置している。個々の排泄障がいへの支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行っています。便秘の方には医師による緩下剤を利用しています。また食事でも食物繊維が含まれる食材を取り入れ、無理のない程度に身体を動かすことも行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴はご本人が疲れるので、週3回、ゆっくり入浴出来る様にしています。	入浴支援は月曜日から土曜日の午前中に、利用者の状態や希望にそって週3回、入浴している。時間や順番はその日に決めており、入浴拒否や異性介助拒否の方はいない。菖蒲やゆずを入れて季節や香りを感じている。サーモス式シャワーとシャワーキャリーを使用し身体状態に合わせて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて就寝して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個々のファイルに保管しており、職員は常に確認が出来る様になっています。保管も厳重にしてあり、閲覧には管理者の許可を得るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみを手伝って頂いております。また好きなテレビ番組を見ております。動物や小さな子供が出た番組は特に喜ばれ、笑顔になります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の方が来られた時は、一緒に出掛けられます。天気が良い風のない日に施設周辺を散歩したり、花見にも出掛けております。	利用者の高齢化に伴い外出する機会が少なくなっているため、天気のよい日は1対1で事業所の周辺を会話をしながら散歩したり、花見をして利用者に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々により使う頻度が異なる日用品の買い物は職員が預かり金の中で買い物をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話の取次ぎを支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の保持、空調機で室温管理・換気に配慮しております。周りの景色が良いので季節の移り変わりを感じてもらっています。	1階に厨房兼食堂・居間があり、家具やソファの配置を工夫して利用者の見守りをを行っている。窓を開けて換気したり、室温や湿度の管理を行い感染症予防や健康管理に取り組んでいる。居間でデイサービスの利用者と一緒に作品作りやゲームを楽しんだり、クリスマスツリーを飾り四季を感じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされています。体調の悪い時は静養室を利用されます。自分の居室へ行かれたり、気に入った場所で過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを観たい方は各自持参で。寝具等も自分の使いたい物を持ってきて頂いています。	各居室にはエアコン・ベッド・クローゼットが設置されており、使い慣れた寝具や家具、テレビなどが持ち込まれている。思い出の写真や手作り人形を飾ったり、応援している野球チームのポスターを壁中に貼るなど、その人らしく、今までの暮らしが継続できる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般にわたり、ご自分で出来ること、介助が必要なことを見極め、自立に向けた支援を行っております。		